

最優秀賞

「建設業への私の思い」

愛知県立半田工業高等学校 建築科 3年
鈴木吹雪

私の考える建設業とは、未来を創る仕事だと思います。建設業は地図に残る仕事だと言いますが、それはただ建築物が存在しているだけではなく、その場所には、たくさんのストーリーを生み出して人々の大切な記憶として残る仕事だと思います。

たとえば、ある家は、気付けば大人になっていた子どもが独り立ちをする場所になるかもしれません。また、その家に根を張って、未来を共に過ごすかもしれません。毎朝、早く自宅を出て仕事に行く父親が、毎日疲れて帰ってくる憩いの場所かもしれません。定年で退職したあとでも自分の未来を支えてくれるかもしれません。そこには、いつでも同じ場所で待っていてくれる安心できる場所、これこそが家なんです。当然それは、他者の目にも触れるし、見た人にもその家が与える何らかのストーリーが生み出される。建築物が与える影響は無限に広がっていくと思っています。

建設業(建物など)は、地図という平面状のものに残る単なる図ですが、実際には平面的だけでは捉えることのできない多くのストーリーと未来への選択肢を創っているのだと思います。

一重に建設業と言ってもその業種は、たくさんあります。建築・土木・農業土木・造園系等、これらは、一業者で完成するものではなく、互いに補い合って初めて完成するのです。敷地の中に、建物が建てられたら、その周りにエクステリアなど庭園が造られて、さらにその周りを土木によって道路が通ります。その道路の先には、他の家があるので、その家の人とのつながりができます。建設業は、人と人とのつながりがあって初めて完成され人と人とのつながりが造る仕事でもあると思います。

歴史上の有名な人物は、少なからず、名建築に関係の深いものです。私の住むこの愛知県には、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の戦国大名がいます。織田信長は、滋賀県に安土城を築かせた有名な武将です。日本には昔から城と呼ばれる巨大な木造建築物を造る技術がありました。織田信長の造った安土城は、戦のための城とい

うものではなく、シンボリックな建造物として、居住性を兼ね備えた建物であったと思っています。天守閣も居住性を考え造られていたようです。実際に信長も住んでいたと記録されているようです。天下布武を打ち出した当時、建築物とは政治的にも必用なものであったように感じられます。豊臣秀吉も同じように、大阪城を築城させています。秀吉は、太閤検地も行っており、測量の技術が当時どれだけ大切な収入源の基礎であったかを知ることができます。また、秀吉は、大阪城以前に、一夜城を築城しています。これは私が一番興味を持ったことでした。川の上流で筏を組みそれを建築資材(城)にする画期的な考えで、わずかな期間で城を完成させました。今で言うプレハブ構造に似ていると感じました。秀吉の建設に対するアイデアに感銘を受けました。徳川家康は、現在の東京を築いた都市計画のスペシャリストであると思います。現在の東京の反映は家康によって築かれていると私は考えます。このように歴史上に登場する有名な人物は建設業にも精通し、いろいろな建設方法を生み出し、現在の建設業の基礎を築き、建設業の魅力を私たちに伝えているのだと思います。

世界においても、古代文明期のエジプトのピラミッドやギリシアの神殿、時代が変遷するに従い宗教建築から始まる教会建築物からパリ大聖堂や王室のヴェルサイユ宮殿、エッフェル塔、イタリアのピサの斜塔、インドのアークシャルダーム寺院…など。

このように、私の知っているだけでも有名建築物は世界や日本に多く現存しています。これらは、建築物の素晴らしさや魅力を後世の人々に伝えているのだと思っています。私自身もこのような建築物のように、自分が死んでしまった後でも、未来に向かって、現存し続ける建築物の設計や施工者の一員として携われたらどれだけ幸せだろうかと思う。そして、私の子や孫、そのまた子と、私の携わった建築物が思い出としてストーリー化して、みんなの心に刻まれていったとしたら…。

それだけ建設業には無限な魅力が眠っているのだと私は思っています。